

「富山」を伝える ショップの視点

[期日] 2016年12月7日(水)

[会場] D&DEPARTMENT TOYAMA

首都圏における富山県の新しいアンテナショップ「日本橋とやま館」(中央区日本橋室町)が6月4日、開店しました。コンセプトは「富山の日常の上質なライフスタイルの発信」。立山杉をふんだんに使った店内には、県産の食品や工芸品が並ぶほか、地酒を提供するバーラウンジ「トヤマバー」や和食レストラン「富山はま作」などが入ります。今回のナイトフォーラムは、「日本橋とやま館」館長の山下章子さんと、全国の地域の魅力を掘り起こすD&DEPARTMENT PROJECTの創設者であるナガオカケンメイさんに、日に日に注目を集めるとやま館の現状と展望について語り合っていました。



ショップ店内

食文化をたのしむ、ものづくりの文化に触れる、交流する…3つのコンセプトで富山の魅力を発信。

山下 富山県民にとっての「あたりまえ」の価値を伝えていきたい。



富山県産材をふんだんに使った店内(写真は「富山はま作」)

県内17蔵の日本酒をラインナップしたバーラウンジ。700円で3種類のお酒を飲み比べできる。



日本橋三越本店と道路一本へだてた好立地。

ナガオカ 日本橋は江戸の「粋」が残る、「本物」の価値を分かる人たちが集う街。



ナガオカケンメイ

デザイン活動家
京都造形芸術大学教授
武蔵野美術大学客員教授

すでに世の中に生まれたロングライフデザインから、これからのデザインの在り方を探る活動のベースとして、47都道府県にデザインの道の駅「D&DEPARTMENT」を作り、地域と対話し、「らしさ」の整理、提案、運用をおこなっている。



山下 章子

日本橋とやま館 館長

宇奈月町生まれ(現黒部市)、富山市八尾町在住。文化振興課、建築住宅課(景観)、観光課を経て富山県首都圏本部。観光課で北陸新幹線開業を迎えた後、昨年10月から日本橋とやま館の開店準備に携わり、6月開業から同館館長。現在は東京に単身赴任。「子どもたちが戻りたくなる富山に！」がモットー。



交流スペースでは、「工芸の富山フェア」「高岡銅器組合フェア」などのイベントを、1~2週間ごとに開催。



城端の絹織物を使ったワークショップ。